



技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター秋季号<第65号>(平成17年9月15日発行)

巻頭言

支部長に就任して

九州支部 支部長 光岡 毅 (建設・福岡)

皆様方のご推薦を頂きまして、5月28日の総会で支部長を拝命いたしました。皆様のご支援に対し誠心誠意勤めてまいります、ご支援者からは、明治政府の五箇条のご誓文にあります「万機公論に決すべし」でやれという言葉を受けております。この言葉どおり皆様方のご意見を十分伺いながら運営を進めていく所存でありますので、常に忌憚りの無いご指導とご鞭撻を賜りたいと思います。

私に与えられた大きなテーマは、二つあります。ひとつは、この10月に行われる技術士全国大会です。大会のテーマは「技の連携・培う地域の新文化」で、産学官の連携によってもたらされる地域産業の発展は地域の新文化を構築するという理念を掲げました。具体的に、現実的に技術士に何ができ、何をすべきかを5つの分科会によりテーマを絞って皆さんで討論することに致しました。

討議するテーマは、「アジアへのかけはし」「環境保全と安全・安心の国づくり」「地域振興とNPOとの協働化」「技術者倫理」「青年技術士の活動」の五テーマです。

昨今少子高齢化が進み、学生が少なくなって大学によっては学生の確保が大変であり、そのうえ、科学に興味をもつ学生が少なくなっているようであります。このように科学技術に対する国民の層が薄くなっている昨今ではありますが、わが国は「科学技術創造立国」を掲げております。そして、「技術士ビジョン21」では技術士はその推進のため中核者としての役割を強く求めてられています。この考えを発揚するためこの全国大会は有意義であり成功させなければなりません。

もうひとつのテーマは、すでに佐賀県、熊本県及び宮崎県の技術士達は技術士が国民に対し社会に対し貢献しなければならないとの観点でNPOを立ちあげ活動を始めました。

技術士会九州支部は中央の枠内でしか活動できないわけですので国、地方公共団体の技術の支援等に参加するには制約があります。周辺支援のため技術士センターさらに技術士センターが行っていた技術士受験講習会の支援のため有限会社を立ち上げていました。有限会社は技術士法の改正により受講者のニーズに合わなくなり激減したため所定の売上高に到達できなくなり継続業務を除き事実上業務停止しています。一方、技術士センターは、支部と協力して会員の名簿の作成配布、技術士だよりの作成配布及びCPD情報の提供を主たる業務として行っていますが、会員からは、盛んにメリットがないと言われればなしであります。また、CPDの登録費用から見ても技術士会員との費用と会費を合わせると差がわずかになってしまっています、名簿についても個人情報保護法と今までの名簿の意義を問い直した結果発行しないことにしました。すでに技術士だよりは支部のホームページに掲載していますので、技術士センターのメリットがなくなってしまったというのが実情です。

この二つを解体して新たにNPOを立ち上げることを検討中であり、つまり、技術士会九州支部を支援する周辺組織をより活性化するため、組織の根本的な改革を年内に実行に移すことにしています。

この改革の原案を第7部会の若い人たちの考え、技術士センターを頼りにしてきた公務員の方々の考えを十分取り入れ進めています。

当面、この二つの目標に向かって全力投球を行っていますので皆様方の御協力とご意見を賜りたく存じます。

機関所属技術士、独立技術士と地区活動のあり方雑感

私が技術士に合格した年は1994年。同年3月に技術士登録後日本技術士会に入会した。技術士法第1条の“技術士は科学技術の向上と国民経済の発展に資することを目的とする”ことに近づくことを目標に、北九州技術士会に参加し、手探りで地区活動を始めた。

本会は月1回の会合で当時の参加者数は10名未満も多かったが、先輩技術士の方々の活動報告や、参加者全員の最近のトピックス紹介などを通し、活動方向を少しずつ理解していったように思う。その後、代表幹事をはじめとした会合内容の整備・充実や、技術士の役割・レベルについて国や県などとの折衝による報酬業務の確保、会員への周知、また会員の方々の協力もあって、参加人数も30名を超える会へ発展した。現在は、現状の運営形態が数年近くに及ぶ中で、いくつか改善への要望も出てきている。

これらの状況の中で技術士としてのあるべき姿のキーワードを「地域、社会に貢献していること」「正当な報酬を得ていること」「能力向上を継続していること」と捉え、機関所属技術士および独立技術士と地区活動のあり方について雑感を述べてみたい。

“企業内技術士”が一般的通称として使われるが、一般企業の他に行政や教育機関等に所属する技術も含めて考えた方がよいと考え、耳慣れない“機関所属技術士”とよぶことにした。機関所属技術士は以下の特徴を持つ方々と考えた。

- ・地域、社会での外部活動は所属機関における就業規則の制約を受ける。
- ・報酬は所属機関から確保することが保証されている。
- ・能力向上は、所属機関での職務を通して（OJT）、また研修を通して（off-JT）得られる。
- ・所属組織の中核者で若い方が多く、最新の情報は、顧客からの要求を通じて、また機関内のイントラ

末松 正典（機械、総合技術監理・北九州）

ネット情報を閲覧することにより、広範囲に、また自由に入手できる。

一方、独立技術士は、技術士事務所を開設して個人事業活動している技術士（個人事業まで行っていないが、個人として日本技術士会会員になっている方などを含む）で、以下の特徴を持つ方々を指している。

- ・地域、社会での外部活動は自ら決定できる。
- ・報酬は自分で探索、確保した事業収入による。
- ・能力向上は、自己研鑽あるいはCPD教育が主体である。
- ・機関をリタイヤなどした年配の方が多く、最新の情報入手は活字情報からがほとんどで、生の情報はよほどその気になって集めないと入手できない。

それぞれ性格は異なるが、機関所属技術士に対しては、所属機関の規則による制約の中で、地区活動に参加・活躍できる環境の整備が必要なこと、独立技術士に対しては、情報収集や能力向上の確保がむづかしい中で、それらを確保するための地区活動の環境整備が必要なこと、が大きな課題になっている。その対応として以下を提案したい。目新しい案は考え及ばないが、模索しながら少しでも改善に取組みたいと考えている。

- ①会の幹事などの業務役割や任期の明確化と周知。
- ②機関所属技術士が所属する機関の見学会や技術交流会の計画、実施。
- ③会への参加者のトピックスなど紹介の場の設定。
- ④各種勉強会の企画、実施。
- ⑤会の活動内容の周知、オープン化：具体的には日本技術士会九州支部のホームページ中にある「九州支部活動」に、地区活動、常設委員会、部会などの活動成果（議事録など）の掲載と、読者からの意見や要望の受付け欄の新設（アップデートは毎日）。

理事会 概要報告

(社)日本技術士会 理事・九州支部副支部長 是永 逸生 (機械、総合技術監理・北九州)

今年6月の理事選挙で、九州支部代表として当選させていただきました。

技術士会の中で支部の役割の重要性が増加している中での理事就任です。

皆様のご期待に可能な限り答えられるように誠心誠意務めて参りたいと存じますので、どうぞよろしくご指導の程をお願い申し上げます。

今回は定時総会をはさんでの臨時理事会と平成17年度第2回理事会の概要を報告申し上げます。

平成17年度 次期理事就任予定者による会合

(6月24日11時～12時)

自己紹介の後、会長の互選をおこなった。

①仮議長に二期目の原田武重理事を選出。②仮議長から会長希望の自薦・他薦を募った。③山口豊理事(建設)が発言を求め、会長候補として、都丸徳治理事(建設)を推薦した。次に佐藤光雄理事(機械)も発言を求め、トップ当選の永田一良理事(電気電子)を推薦した。④トップ当選者の立候補の意思を確認する事を提案し、仮議長から両名に対しての立候補に関する見解を求めた。⑤その結果、都丸理事は立候補の意思を表示したのに対して、永田理事からは技術士会を一致団結した組織にするために立候補を辞退するとの発言があった。

以上の結果を受けて、理事全員の意思を仮議長が質したが他に立候補の自・他薦も無く、全員賛成で、都丸徳治理事を会長に互選した。

平成17年度 臨時理事会

(6月24日15時45分～16時)

(審議事項)

定時総会終了時点から新しい執行部に移行するため、本臨時理事会で正式に都丸徳治会長を選任した後に、新会長から副会長に永田一良(電気電子)、神戸良雄(金属)、北村友博(近畿・情報)の各理事が提案されて了承された。

(報告事項)

① 常設委員会委員長の委嘱については、都丸会長

より次の七理事を提案され、了承された。倫理委員長・原田武重(経営工学)、政策委員長・永田副会長兼務、財務委員長・北本達治(化学)、事業委員長・山口豊(建設)、広報委員長・神戸副会長兼務、業務委員長・北川善久(上下水道)、報酬委員長・佐藤光雄(機械)

② 理事会の開催日程：原則として奇数月第2木曜日13時30分から開催と決定

平成17年度第2回理事会

(7月14日13時30分～16時)

開会に先立って都丸新会長の挨拶あり、概要を以下に記す。

① 技術士及び技術士会は技術士法に基づいたもの、その重さを互いに認識する要あり。

② 技術士会の大きな仕事は二つある。技術士試験を責任もって実施する試験センターの仕事ともう一つは技術士制度に対して関心を持って意見を述べ改革する仕事である。人の資質向上も含む。

(審議事項)

- (1) 顧問(前会長)、評議員(前副会長、理事、幹事：任期2年)
- (2) 常設委員会委員；(政策委員) 小出剛；支部からはどれかの委員会に一人だけ選任
- (3) 実行委員会委員；(青年技術士交流) 田辺努、(業務幹旋) 松尾憲一：留任、(海外業促進) 宮田守次、(平成18年全国大会運営) 甲斐忠義(以上九州支部関係敬称略)
- (4) 「CPD証明特別委員会」；(目的)「技術士ビジョン21」における職業別技術士のCPDガイドライン等CPDに関する諸問題について検討
- (5) 「技術部門及び部会検討に関する特別委員会」；(目的)「技術士技術部門及び日本技術士会技術部会」のあり方について調査検討。委員+WGの設置
- (6) 「会員拡大及び技術士活性化に関する特別委員会」；(目的)「組織・制度改革への行動指針」に示された会員拡大に関する事項、「職域別技術士の

位置付け行動指針」の検討及び技術士全般の活動活性化。委員+WGの設置

(7) 技術士ビジョン21」アクションプランの作成方針 (H16.9.8) による課題は以下により対応

- ①組織・制度に関する課題:「技術部門及び部会検討に関する特別委員会」及び政策委員会
- ②CPDに関する課題:事業委員会
- ③技術士の位置付け等に関する課題:「会員拡大及び技術士活性化に関する特別委員会」
- ④国際化に関する課題:国際特別委員会
- ⑤その他の課題:関連する各常設委員会

(報告事項)

(1) 「組織・制度改革本部」は継続し、新役員の会長、副会長、常設委員長が就任。

事務局長は竹下専務理事が就任、地方委員は削減された。

(2) 定時総会、役員選挙結果報告

(3) 「原子力・放射線部会」設立、部会員数;35名

(4) 常設委員会等報告;新委員会への申し送り状況

等の報告

(5) 会員・準会員等の推移;(H15年5月末) 会員11032 準会員2788 計13820

支部事務局には詳細な会員情報が利用出来るようにシステムの整備中

(自由討議)

議題終了後自由討議を実施した、その概要を以下に記す。

- ・技術士会 CPD は外部から見て明確に分かる組織・会員以外へのサービス、受益者負担
- ・CPD に対するか委員の評価・認証方法・技術士会のロゴ変更
- ・年25,000人増加している修習技術者への対応・個人情報への対応

理事会後の懇親パーティの会場で「第32回技術士全国大会は福岡開催なので、理事全員出席は勿論、各支部・本部に置かれても、多数のかたがたのご出席を特に要望します…」と檄を飛ばしてきました。

第32回技術士全国大会 (福岡) のお知らせ (講演関係プログラム)

(社)日本技術士会九州支部

開催日	2005年10月19日	場 所	ホテル・ニューオータニ博多	大会テーマ	技の連携・培う地域の新文化
記念講演演 題	水素利用社会実現への課題	講 師	村上敬宜 (九州大学大学院工学研究院教授・工博・前工学部長)		

分科会		詳細については変更の可能性があります				
	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会	
テーマ	アジアへのかけはし	環境保全と安全・安心の国づくり	地域振興とNPOとの協働化	技術者倫理	青年技術士の活動	
主 査	三浦 哲彦(建設・総監・工博)	中村 勲(建設・総監)	斉藤 清美(衛生・工博)	沖部 俊昭(経営)	田辺 努(機械・総監)	
副主査	伊藤 整一(建設・総監)	鶴島 郁之輔(建設・総監)	藤永 正弘(建設)	打田 憲生(中部)		
基調講演	演題	福岡発展戦略ーアジアの交流拠点福岡の形成ー	自治体における都市環境管理政策	九州の水と緑と豊かな暮らし	倫理的意思決定のプロセス	青年技術士の活動〜現状と課題、展望
	所属	福岡県企画振興部 次長 9:30~10:15	北九州市 環境局長	NPO法人 大分環境カウンセラー協会 理事長	北九州市立大学 国際環境工学部教授	青年技術士交流実行委員会委員長
	氏名	権現 昭二	垣迫 裕俊(建設・総監)	須股 博信	松藤 泰典(工博)	石井 一夫(生物工学・医博)
分科会発表演題	1	環黄海経済圏の成長と東アジアにおける経済連携の進展を見据えて 九州経済産業局 国際企画調査課長 堀 孝司 10:15~10:45	循環型社会の形成と活用 福岡大学助教授(衛生・工博) 柳瀬 龍二	NPO自治体との協働化(環境の視点から) 環境管理システム研究会 杉元 勝	① 松崎 和夫(大分) ② 坂田 一則(北九州) ③ 選定中(8月下旬に決定) ④ 選定中(8月下旬に決定)	パネルディスカッション 「青年技術士の活動及びその連携と今後の可能性」
	2	APECEンジアの活動体験(技術者の交流) サムソンコーポ:今西 肇(建設・工博) 11:00~11:30	食の安全・安心に向けて 九州農政局 消費・安全部長 畠 幸司	石の文化とまちづくり(技術士のつどい) 熊本技術士会(建設・総監) 堤 康博		コーディネーター 九州支部 田上 健一(建設)
	3	地勢文化と都市形成ー福岡・北九州両市の比較 福岡市港湾局:馬場崎 正博(建設・建設) 11:30~12:00	福岡県西方沖地震について 九州大学大学院教授(建設・工博) 善 功企	流域環境保全におけるパートナーシップの重要性とNPOの役割 西日本技術開発網 井芹 寧(建設・上下水道・工博)		パネリスト 北海道 椿谷 敏雄(建設) 東北 三浦 康二(電気電子) 本部 園家研一郎(航空宇宙) 中部 比屋根 均(衛生・総監) 北陸 堀田 亨(応理・総監) 近畿 大氏 正詞(建設) 中四国 鈴木 竜司(電気電子) 九州 久富 浩明(情報)
	4	ビートルに見る日韓観光交流の現状と展望 J R九州:師村 博(機械) 12:00~12:30	台風による有明海の高潮被害と対策 ㈱シビコン(建設・総監) 加来 雄一	パネルディスカッション「地域振興と住民との合意形成を目指して」 鹿児島大学教授(農博) 守田 和生 ほか4名		

行事・会合報告

社団法人日本技術士会九州支部役員名簿

平成17年 6月

役職名	氏名	部門	備考
顧問	帆足 建八(留任)	建設	
顧問	泉館 昭雄(新任)	電気電子	

支部長	光岡 毅(新任)	建設	
副支部長	池田 義實(留任)	建設	
副支部長	是永 逸生(留任)	機械、総監	
副支部長	藤永 正弘(留任)	建設	
副支部長	甲斐 忠義(新任)	建設	全国大会委員行員長
会計監事	鶴島郁之輔(留任)	建設、総監	
会計監事	石井 輝久(新任)	電気電子	
総務委員長	吉竹 正致(留任)	建設、総監	
試験管理委員長	齊藤 健男(留任)	建設	
事業委員長	中村 勲(新任)	建設、総監	
広報委員長	棚町 修一(留任)	建設、総監	
業務開発委員長	大里 信義(新任)	化学、総監	
CPD委員長	伊藤 整一(新任)	建設、総監	
CPD審査委員長	完戸 鶴(留任)	農業	
災害・技術支援委員長	清水 博和(留任)	建設	
IT推進委員長	木下 茂廣(新任)	建設	
第一部会長	黒江 浩(新任)	機械	
第二部会長	佐竹 芳郎(新任)	建設	
第三部会長	和田 洋二(留任)	金属	
第四部会長	小宮 信行(留任)	上下水道	
第五部会長	小出 剛(留任)	農業	
第六部会長	松浦 茂雄(留任)	環境	
第七部会長	田辺 努(留任)	機械、総監	
福岡代表幹事	針貝 武紀(新任)	建設	
北九州代表幹事	長崎 治夫(留任)	電気電子	

佐賀代表幹事	藤永 正弘(留任)	建設	
長崎代表幹事	大橋 義美(留任)	建設、総監	
熊本代表幹事	加来 雄一(留任)	建設、総監	
大分代表幹事	吉良 文至(留任)	建設	
宮崎代表幹事	新城 精一(留任)	建設	
鹿児島代表幹事	竹元 幹生(留任)	応用理学	

支部幹事

地区代表幹事、部会会長及び委員会委員長はすべて幹事で、それ以外の地区、部会及び委員会の幹事。

福岡 山口一弘(建設) 長野紘一(建設)
松田研志(上下水道、建設、総監)
矢野武彦(農業) 碓 俊明(電気電子)
畠中新二郎(情報) 古賀昭久(環境、建設)
久保川孝俊(建設、総監)

北九州 松原好直(上下水道) 坂田一則(金属)
安西敏雄(金属) 沼尻健次(機械、総監)
末松正典(機械、総監)
長野義次(農業、総監)

佐賀 内山順治(森林) 宮副一之(建設、総監)
長崎 平原宏志(建設、総監)
熊本 兼子健男(農業)
大分 瀬口宏由紀(建設) 浜 光春(建設)
宮崎 西田 靖(建設)
鹿児島 後藤祐一郎(農業、森林、総監)

本部委員

本部政策委員	小出 剛(新任)	農業	
海外業務促進実行委員	田中 厚一(留任)	経営、総監	
業務幹旋実行委員	松尾 憲一(留任)	機械、総監	

九州技術士センター役員名簿

平成17年 6月

役職名	氏名	部門	備考
顧問	水上 信照(新任)	建設	

会長	小出 剛(新任)	農業	
副会長	吉良 文至(留任)	建設	

副会長	木下 茂廣(留任)	建設	
会計監事	向江 宗利(留任)	経営、総監	
会計監事	日下部岩正(新任)	建設	
業務企画委員長			
普及啓発委員長	津城 正(留任)	建設	

理事	向江 宗利(留任)	経営、総監	
理事	日下部岩正(新任)	建設	
理事	原田 彰(留任)	建設	
理事	津城 正(留任)	建設	
理事	真鍋 和義(留任)	上下水道	福岡地区
理事	吉木 久人(新任)	農業	福岡地区
理事	西井 康浩(留任)	建設	北九州地区
理事	寺師 正廣(留任)	上下水道	北九州地区
理事	戸木田康男(新任)	金属	北九州地区
理事	皆良田征夫(新任)	金属	北九州地区
理事	福島 裕充(新任)	建設	佐賀地区

理事	山口 和登(留任)	応用理学	長崎地区
理事	川村 昭宣(新任)	建設	長崎地区
理事	山本 祐司(留任)	建設	熊本地区
理事	吉田 紘彬(留任)	応用理学	熊本地区
理事	室之園泰昭(留任)	建設	大分地区
理事	宮崎 辰彦(留任)	建設、総監	大分地区
理事	井川 仁(留任)	建設	宮崎地区
理事	太田 義信(留任)	建設、総監	宮崎地区
理事	西山 哲郎(新任)	建設	鹿児島地区
理事	門松 経久(新任)	農業	鹿児島地区

技術士会九州支部会員名簿の発行中止について

平成17年7月

(社)日本技術士会九州支部 支部長 光岡 毅
九州技術士センター 会長 小出 剛

今年度の定時総会において、会員名簿の編集を10年以上にわたって担当されている町田先生から、会員名簿の発行に関して、つぎのような提案がありました。

個人情報保護法が今年度から施行されるが、支部は会員名簿の発行について、どのように対応していくか、と仰うことでした。

技術士会本部としても個人情報保護法の施行に対応して、「個人情報保護規則」の作成、「情報セキュリティ室」の設置、など体制の整備が進められています。

本部の体制が整備されれば、支部としても本部の方針に沿って対応していかなければなりません。定時総会では個人情報保護法の施行直後のことでもあり、不明な点も多く会員名簿の発行に関して確たる意見は出されず、結局支部執行部に一任ということになりました。

これを受けて、支部では名簿検討委員会を設けて、名簿発行に関して検討を行いました。

名簿発行に関して次の項目

1. 従来どおり会員名簿を発行
2. 氏名と部門だけの名簿発行
3. 会員名簿の発行中止
4. その他

等について検討の結果、諸般の事情を勘案し今年度

は会員名簿の発行中止のやむなきに至りました。これまで、立派な名簿があっただけに、会員の皆さんには大変ご不便をおかけしますが、次のような代替の方法をとっていただきたくお願いする次第です。

支部会員

1. 本部のコンピューターの「会員情報DB」を利用
 - ・会員の情報はすべて本部のコンピューターの「会員情報DB」の蓄積してある
 - ・会員はWEBサーバーを通して、自分の情報の登録・変更が可能
 - ・一定の範囲で会員情報についてWEB名簿が閲覧可能
2. 支部IT推進委員会が編集した会員情報を利用
 - ・IT推進委員会が編集したもので、正会員、センター会員すべて網羅している
 - ・情報については、所属の部会長（第7部会を除く）か所属の地区代表幹事に聞く

センター会員

1. 支部IT推進委員会が編集した会員情報を利用

詳細については、上記支部会員の項目2と同じ
以上よろしくご協力お願いします。

CPD 委員会活動とお願い

九州支部 CPD 委員長 伊藤 整一（建設、総合技術監理・福岡）

九州支部 CPD の現状については、今までに幾度かこの紙面上で紹介されてきていますが、もう一度現状と課題について取り上げて見たいと思います。

資格取得後の資質向上責務については、技術士法第47条の2に規定があり日本技術士会会員であるか否かを問わず、責務を課せられていることは周知のところですが、支部 CPD は“共通課題”での研鑽＝資質向上を目指しています。

九州支部 CPD 第2ステップの方針

現在までの CPD 活動方針は以下のとおりです。

1. 九州支部全体の CPD 活動とし、地域格差の是正を図る。
2. CPD 範囲の拡大 従来の研修会、部会研鑽会に加え各地域や学協会との共催
3. CPD 講座内容の審査認定と講座のデータベース化
4. CPD 登録の支援（データ WEB 登録システムの活用奨励）
5. 修習技術者支援活動（研修会、指導技術士紹介、企業内技術士支援、青年日本技術士会との連携）

CPD 推進組織

上記の CPD 活動を推進するために支部には下記の組織があり、それぞれ活動しています。

1. CPD 審査委員会（委員長：完戸 鶴氏）
2. CPD 委員会（主査：久保川孝俊氏）
3. 地区委員
4. CPD 登録支援 WG（主査：野見山益生氏）
5. 修習技術者支援 WG

今後の課題とお願い

今後の課題として下記の事項が挙げられます。会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

1. CPD 地域格差の是正

福岡県を除く各地区にお住いの会員では、支部 CPD 受講を希望しても時間と費用の面で困難な場

合が多いので、支部 CPD を各地域でも開催する事を計画しています。各地区との共催は各地区委員の方の協力を得ながら実現して行きます。また、東京で実施されている中央研修が支部及び各地区においても受講出来るシステム（同時受講システムあるいはビデオ受講など）の早期構築が望まれます。

2. 講演シートの普及

現在支部で作成し CPD 受講者に配布している「講演シート」(A4版1枚＝原案は北九州地区)を各部会・各地区の CPD でも採用していただきたい。「講演シート」原稿は CPD 委員会保管、支部 HP からダウンロードできるよう準備中)

この「講演シート」の内容は、皆さんの CPD 登録時にもほとんどそのまま利用出来ますし、支部としては「講演シート」をデータベース化して行く予定で準備をすすめています。

3. CPD 審査委員会への申請

今後各地区及び各部会において開催される CPD について、出来れば事前に上記「講演シート」によって、CPD 審査委員会へ審査申請をしていただく必要があります。審査申請は「講演シート」に CPD の概要と講師及び推薦者を明記して、審査委員会（支部）へ提出（メールにて可）して下さい。これによって、その CPD が一定のレベルで実施された事を証明出来ます。

4. 支部委員会活動等への参加

技術士法の改正によって、今後修習技術者の大幅な増加が予想されますし、修習技術者への研修や登録支援が益々必要になっています。

支部活動には技術士会員の参加が必須です。ボランティア活動が基本ですが、空いた時間を活用して多くの会員が委員会活動に気楽に参加されるようお願いいたします。また CPD へのより多くの皆さん、特に若い技術士の皆さんの参加を歓迎しています。(10月 CPD として、全国大会（福岡市）へ是非ご参加下さい。全国大会概要は前64号6/15に掲載)

CPD についてのご要望・ご質問等は支部事務局（連絡先は末尾ページ）へメールにてお寄せ下さい。

業務開発委員会報告

業務開発委員会委員長 大里 信義（化学、総合技術監理・北九州）

去る平成17年7月19日、日本技術士会九州支部事務所において業務開発委員会を開催し今後の活動について討議したので報告する。

出席者は光岡 毅支部長、泉館昭雄顧問、是永逸生理事、小出 剛政策委員、池田義實副委員長、松尾憲一委員、向江宗利委員、大里であった。

以下に討議の内容を述べる。

1. 業務開発委員会のメンバーは次の通りである。

（敬称略）

委員長	大里 信義
副委員長	池田 義實（副支部長）
副委員長	末松 正典（北九州幹事）
事務局・書記	松尾 憲一（支部事務局・本部業務幹旋実行委員）
委員	光岡 毅（支部長）
委員	泉館 昭雄（支部顧問）
委員	是永 逸生（本部理事）
委員	小出 剛（センター会長・本部政策委員）
委員	甲斐 忠義（副支部長・全国大会実行委員長）
委員	齊藤 清美
委員	向江 宗利（センター会計監事）
委員	棚町 修一（広報委員長）
委員	宮田 守次（本部業務幹旋実行委員）

2. 業務開発委員会のミッションは？

→九州支部技術士会正会員の求めに応じて次の業務を開発することである。

- ①技術士として正当な報酬を得られる業務。
- ②技術士としての能力の向上に資する業務。
- ③技術士として社会に奉仕することを支援する業務。

3. 業務遂行の条件

- ①顧客満足を第一に考える。（業務の品質、コスト、納期を守り顧客の期待に応える。メンバー各自の不誠実が技術士全体に影響する）

- ②技術士法を遵守する。技術士としての尊厳を保つ（威張ることではない）。

- ③会員に対する透明性、アカウンタビリティを確保する。

4. 結果の期待

- ①技術士会の認知度が上がる。業務獲得がやりやすくなる。
- ②技術士のステータスが向上する。
- ③会員技術士の満足度が向上する。

5. 業務開発委員会の戦略、方針の策定

- ①委員長、副委員長、事務局（書記）で原案作成。
- ②業務開発委員会で検討、承認。

6. 会議

- ①委員会は原則月1回開催原則第3月曜日17時30分より約2時間。議長は委員長、不在のときは池田義實副委員長とする。
- ②書記は松尾憲一委員、会計は末松正典副委員長
- ③議題は委員各自のトピックス、業務進行状況、問題点、要支援点など手短かに報告、その場で次のアクションを決定。
- ④委員は欠席の場合は必ず事前に連絡をとるものとする。

7. 各委員の役割

上記の目的を達成するために委員会全体で行動する。→各委員が担当業務を持ちそれを遂行（そのために補助者を置くことも含む）

大里／中小企業支援センター、商工会、商工会議所、企業再生協議会など、新連携（副）

松尾憲一委員／本部業務幹旋実行委員会から出た業務全般（補助金申請評価グループ、ものづくり大賞評価、技術鑑定評価）（本部長沢氏から出たものなど）

池田義實副委員長／地方自治体業務監査

末松正典副委員長／IST ほか

光岡 毅委員／

泉館昭雄委員／中小機構、新連携、海上火災損害保

険技術評価鑑定

是永逸生委員／北九州市から出た業務（産業博物館、
土壌汚染対策）、裁判所弁護士会への働きかけ

小出 剛委員／

甲斐忠義委員／イベント実行（西日本会、全国大会、
日韓交流ほか）

斉藤清美委員／K-RIP

向江宗利委員／2月会、環境関係業務開発、業務開
発委員会監査

棚町修一委員／広報、透明性監視

宮田守次委員／海外業務促進実行委員会

8. 業務遂行のためのレベルアップ

業務開発のための担当業務の勉強会は業務遂行技
術士に対して委員が中心となって大いに進める。
（泉館委員の新連携の例）

9. 紹介業務の取扱

技術士会（業務開発委員会）を通じて紹介した業
務でグループで行う業務についてはチーフとなる
リーダーを決める。リーダーの指名は担当の業務開
発委員が行う。リーダーは業務遂行の責任を負うと
ともにメンバー選定の権限を持つ。報酬は原則とし
てリーダーが売上の10%をとり、業務開発委員会が
5%の手数料を上納してもらうこととする。（従っ
て業務を実施した担当者は85%の収入となる。）

10. 業務の募集

透明性確保のため業務開発委員会で把握した業務
については原則、メールで九州全体の技術士会正会
員でメールの可能な人に発信する。

ただし応募者が多いときどのメンバーに担当して
もらうかはリーダーの裁量とする。

会員名簿発行中止に伴う会員情報の問合せ

今年から会員名簿発行が中止になり、会員情報の
問合せは、次のようになります。

支部会員：①本部コンピューターの「会員情報DB」
を利用

②所属の部会長（第7部会を除く）か、
所属の地区代表幹事に問合せ

センター会員：①所属の部会長（第7部会を除く）
か、所属の地区代表幹事に問合せ

第1部会長 黒江 浩

（機械、船舶・海洋、航空宇宙、電気電子）

第2部会長 佐竹 芳郎（建設、応用理学）

第3部会長 和田 洋二

（化学、繊維、金属、資源）

第4部会長 小宮 信行（上下水道、衛生工学）

第5部会長 小出 剛

（農業、森林、水産、生物工学）

第6部会長 松浦 茂雄

（経営工学、情報工学、環境）

福岡地区代表幹事 針貝 武紀

北九州地区代表幹事 長崎 治夫

佐賀地区代表幹事 藤永 政弘

長崎地区代表幹事 大橋 義美

熊本地区代表幹事 加来 雄一

大分地区代表幹事 吉良 文至

宮崎地区代表幹事 新城 精一

鹿児島地区代表幹事 竹元 幹生

気軽に原稿をお送りください

「技術士だより」から、技術士のみなさんの気
持ちが溢れて、生き活きとした息吹がほどぼし
るようにしたいと思います。それで「声の広場」の
原稿をお送りください。例えば、

①なぜ技術士になったのか。

②技術士になって判ったこと（よかった点、足り
ない点、意外だったこと。etc.）

③技術士としてこんな仕事をしたい。

④いま、仕事のうえで悩んでいること。

この他にいろいろあると思います。お気軽に書
いてみてください。原稿は800～900字程度。送り
先は支部事務局。FAXかE-mailで、どうぞ。

地域だより

福岡

福岡市役所技術士会について

松尾 孝則（上下水道、総合技術監理）

福岡市では本年3月20日、本市北西沖を震源とするマグニチュード7の地震が発生し、市内各所に大きな被害を受けました。その中でも特に西区玄界島の被害は甚大で復興には長期間かかるものと思われる。

一方、気象庁より、今年6月における地球の平均気温は1880年の統計開始以来、最も高かったことが発表され、これは、地球全体の問題となっている「地球温暖化」と「数年前からの数十年周期の気象変動の高温期」にあたるためと分析されています。

このような地球規模で問題となっている温暖化や災害等に対応するため産官学一体となり、科学技術の向上が求められているところです。そのような状

況の中で福岡市役所にも技術士が多数在籍しており、市民生活の向上を目指して業務に励んでおります。

さて、福岡市役所技術士会の現在の二次試験合格者数は、現役の市職員が43人、OB23人の総数66人となっています。また一次試験合格者35人を加えますと総数101人となり、九州支部の中でも有数の技術者集団と言えるのではないのでしょうか。

具体的な活動については、まず懇親会を兼ねた年1回の総会ですが、この機会に会員が講師となつての講演会を行なっております。本年2月に開催しました総会では、福岡市の大型事業として進めてまいりました「地下鉄七隈線の開通」と題して講演を実施しました。また、継続的研鑽として、総合監理技術部門への挑戦のための講習会を実施しております。その他九州支部各部会開催の講演会や研修会等へ積極的に参加させていただいております。

今後は、更に会員のCPDの援助や、二次試験受験の援助など、有資格者の増加と技術力向上を目指して活動していきたいと考えております。

北九州

北九州地区技術士会の活動状況

地区幹事 寺師 政廣（上下水道）

北九州地区技術士会では、毎月第3土曜日13時から17時まで、戸畑生涯学習センターにて、月例技術研修会を開催しています。最近の活動状況について報告いたします。

1) 研修会の進め方の改善

研修会は技術報告2題（50分）、卓話1題（30分）を基本としています。平成16年から、県外の技術士や異業種の方にも参加していただき、技術交流を行っています。現在まで発表された方の技術講演は以下のとおりです。

①「土壌汚染対策と不動産鑑定《外部講師》」

平成16年3月 加藤一生氏（不動産鑑定士）

②「土壌汚染に係る給油所取り扱い石油製品とその成分」平成16年11月

村谷俊雄氏（工学博士、大分地区・化学）

③「大阪府条例に基づく土壌調査・対策方法と過去の調査事例について」平成17年2月

橋場常雄氏（日本技術士会理事、関西支部、総合技術監理・環境）

④「化学の力で作る人工臓器」平成17年7月

早野総和氏（工学博士、大分地区・化学）

2) 技術士業務の開発状況

①北九州産業技術史編纂業務

北九州産業技術博物館計画の一環として、歴史の古い会社を中心に、世界で初めて成功した人をまとめました。新日鐵、日立、新日化等14社200ページで、(有)九州技術支援センターが契約しました。

②土壌汚染対策研究会

平成15、16年度に北九州市環境未来技術開発助成金を受け、「土地の鑑定評価等に有効な土壌汚染診断システムの構築」の完了報告書を5月に提出しました。平成17年度は、この成果を基に、具体的な事例に取り組むことになりました。

長 崎

平成17年度通常総会 及び活動報告

地区代表幹事 大橋 義美(建設、総合技術監理)

白色の優美な鋼斜張橋の大島大橋が架かる西海市の「大島アイランドホテル長崎」において、6月24日に「平成17年度通常総会」と合わせ研修会と懇親会を開催しました。総会は21名の参加で17年度の事業計画(案)等について審議し承認されました。

今年度は、会のHPの開設、会員の増強、地域に開かれ地域に貢献する技術士会として活発な活動を行うため「(財)長崎県建設技術研究センター(NERC)」等との協力、会則を改正し総務広報・事業CPD・IT・修習技術者支援・災害技術支援の委員会の設置、機関誌の発行などを重点に活動を推進することを決めました。が、諸活動が形骸化せず軌道に乗るためには会員の参加と協力が必要です。

研修会は、「浮体構造物の現状と課題」と題して、若杉泰昭氏(建設部門)による、浮体構造物の種類や

設置の状況、維持・管理や今後の活用と課題などについて興味ある話題でした。研修後は造船所及び醸造工場の見学会を実施しました。造船所では、ばら積船が連続建造されており、600tの船体を一体組みとしてドックで組み立てられる工法など規模の大きさに驚嘆の声が挙がっていました。

その後、懇親会を開きお互いの近況や今後の会の運営等について話し合い楽しい一時となり、一泊し散会しましたが、有意義な一日となりました。

ところで、平成14年度からNPO法人技術交流フォーラムにより、「四郎島大砲台場の調査・研究」がなされ長崎県技術士会も地元として協力させていただきました。調査の状況や結果等について長崎新聞に掲載されてきましたが、同紙7月12日付の特集企画「県境を越え一育むひと、モノ、こころ」で、長崎台場歴史に光を、NPO設立し研究へ、との見出しで大きく報道されました。このように、NPO法人設立のきっかけとなった調査に参加できたことは会として光栄であり、今後とも、地域に貢献できる活動が出来るように努めて行きたいと考えています。

熊 本

最近の主な活動

地区広報委員 吉田 紘彬(応用理学)

7月末、熊本は暑い。一昔前であれば老人の仲間に入っていた年齢だが、還暦以後の年はUターン。つい無理をしてどろどろの血が何時止まるかと太陽が怖くなるときがある。公共事業は冷え切り川辺川ダムの建設、荒瀬ダムの解体、新幹線熊本駅周辺整備はどうなるの。県民の自己主張が強いのか、指導者がいないのか、新幹線では政治力が強い鹿児島から先に着手したと考えていたら、熊本は決断が遅く、鹿児島側で着手すれば、いずれその気になるだろうという、真実かどうかは分からない理由を聞かされ、改めて明治維新や西南戦争を考えさせられた。

プロジェクトチーム熊本技術センターで、最近2件の訴訟事件に関係し、建設業界が如何に信用を無くしていたかを思い知らされた。未だ結審していな

いので、詳しくは述べられないが、異常な降雨が原因と考えられる建物の変状で、いずれもまじめな建設会社が訴えられた事件である。

熊本県の技術士が絡む行事としては、NPO法人みらい有明・不知火が、10月27～28日に長崎・佐賀・熊本三大学合同第3回シンポジウムを予定している。これまで“海域”を主体とした調査研究を“陸域”まで広げたことから、熊本技術センターは、“有明海・八代海に流入する河川とその特質について”と言うテーマで、研究の準備を進めている。

熊本県技術士会は“熊本県の新技术”と言うテーマで11月22日にセミナーを予定し、NPO法人熊本技術士の会は、技術士受験の支援講習会がいよいよ大詰めになっている。IT企業発展のおかげで多くの情報が得やすくなった。毎日のメールを選択して読み、また、削除するのが大変であり、技術士のホームページを見る時間が取れなくなっている。時々同窓会のはがきや郵便物になにやら暖かいものを感じるの、やはり、年のせいだろうか？。

I

人口借金（団塊の叫び）

竹内 良治

（水道、建設、衛生工学、総合技術監理・北九州）

1. はじめに

人口問題は、人類、民族、国、地方、街、村、家族にとって、最大の要因のひとつであろう。いや、生物の個体数 **population** に置き換えれば、過増殖、絶滅の最重要指標である。わが国では多くの評論家が人口急減問題を楽観視しているが、果たしてそうだろうか。昭和20年3月10日、東京大空襲の後も勝利を信じ、御前会議に臨んだ軍の幕僚達、そのため、王なき将棋を半年間、指し、あらた百万人近い犠牲を出した。国のトップが、時勢を見誤ると、悲劇を増した好例である。

表題の人口借金は筆者の造語であるが、もちろん既存語「人口ボーナス」の逆語である。人口ボーナスを改めて説明すると、1970年、私が就職した会社の状況である。従業員5000人、平均年齢27歳、これに季節工2000人が加わる。この会社は、決められた社会保険料を天引きしてもほとんど使途がなかった。まして年金生活者は皆無であった。この状況が、80年代まで、日本全国を覆い尽くした。毎年、政令都市が1～2個できていたと同じ人口増があった。

2. 人口ピラミッド

敗戦後、多くの学会等は自虐、自己否定型に走った。栄養学はその典型のひとつで、敗戦の原因は肉、脂肪を摂らなかつたためと豪語した。40年経って、団塊世代を生活習慣病漬けにしといて、やはり和食が世界最良といわれても困る。

ところが、人口学は鎖国型自己中を維持できたようで、1960年代、当時、日本の人口分布図がピラミッド型であったためか、人口分布図を人口ピラミッドと教えた。英仏などの先進国のそれは釣鐘型、紡錘型であった。日本を正常型、英仏は社会が停滞

したためと教えたのである。当時、「丸」の愛読者であった筆者は疑うことなく、一所懸命学んだ。ところが、そろばん玉型となってしまった今から見ると、正解は、ピラミッド型は乳幼児多産多死時、大ベビーブーム時に現れ、所詮、発展途上国にしかなかった。釣鐘型、紡錘型は安定先進国型なのである。そろばん玉型は無策先送り国ということか。

3. 人口ボーナス

ボーナスは何も後腐れがなく、もらった翌日に辞めても返済をせまられることはない。ところが、人口ボーナスをよく考えると、戦後の老年僅少、若年人口急増によるメリットの先取りであり、3～40年後に返済を伴う。人口ボーナス自体の命名が間違っており、正しくは「人口ローン」というべきである。ローンには借入れと返済がセットになっている。後者が地獄になるのは、ローンをボーナスと勘違いしたり、返済を計画的にしなかった場合である。団塊の後年度負担が目前に迫ってきた。団塊は国の言われるまま黙って社会保険を支払ってきた。しかし、畑のど真ん中の青森新幹線トンネルなどの建設に使われたようで、年金は相当ねぎられそうである。

老年人口を生産年齢人口で除した指数があり、老年従属人口指数とよんでいる。老人ひとり何人で養う目安である。分数指数は団塊が分子に移行することで指数増に気を奪われていたようであるが、分母の減少による指数急増に気付いたようである。分子を二倍することより、出産育児から逃げて分母を半分にするほうがはるかに容易なのである。

日本の人口は、トレンド的に減少したことがないといわれているが、4000年前、三内丸山文化が滅び、以後1000年にわたって、30万人から10万人まで減少した。3000年前、長江の稲作漁労民が、華北の漢民族に蹴散らされ、台湾、琉球弧、笠沙、越の国へとボートピープルとして押し寄せ、弥生の始まりとなった。このときから日本文明の曙である。このとき以来の危機であることを認識し、後になって「王なき将棋を指していた」とならないように祈るのみである。

II

土木施工管理技士の CPDS について

冷川 久敏（水産、総合技術監理・大分）

平成17年の3月ごろ、大分県建設業協会に勤務する先輩から、「1級土木施工管理技士の生涯学習を行う計画があるので、技術士会からも講師を派遣して欲しい」と要請があった。内容が今一つピンとこないで、具体的に説明をお聞きしに伺った。

先輩曰く「土木の分野は、設計、材料、工法、ユーザーのニーズ等々が日進月歩であり多様化している。土木施工管理技士の制度ができて約40年になり、有資格者の中からも、今の施工技術・材料等の目まぐるしい変化（進化？）について、改めて最新の情報を盛り込んだ、系統だった勉強をしたいとの声もある。また、4月からの「品確法」の施行もある。これらに対応するために、1級土木施工管理技士を対象に「継続学習制度（CPDS）」を発足させて、5年間で最低100時間、年間20～30時間を目標に勉強させる。これは、本人と雇用している企業の得点になる。建設業界の厳しい指名競争に対して、CPDS研修を受けている管理技士を有する会社の技術評価を少しでも指名選定の場で反映していただくように、発注官公庁等に働きかけて行きたい」と、まるで、技術士のCPD研修と同じような説明があった。

CPDSは、全国土木施工管理技士会連合会によって、平成12年度から「継続学習制度」を導入している。目的は、土木施工管理技士の技術力や倫理観を高めるための学習・教育システムで工学部門では国内で初めての制度である。

すでに、CPDSについては、国交省九州地方整備局、長崎県、愛媛県、高知県、広島県などが指名選定や経審点数考課等に反映させている。

大分県の建設業協会も、平成17年度から傘下の企業に対して、急遽、CPDSを導入させることになり、第1回目の講習会を6月29日に大分市で開催した。

当日会場に入れたのは、305名で、参加申込みはそれ以上あったと事務局から聞き、建設関連企業の厳しい環境の現実を知らされた思いである。出席確認は技術士の試験以上と感じるほど厳重で、参加者

は一連番号の指定席で1時間単位で在席が確認された。

現在、大分県土木施工管理技士会が選定、委嘱した講師の内訳は、国交省のOB6名、技術士会4名（うち3名は県OB）、会員企業から5名の計15名である。

大分県技術士協会からは、吉良会長（河川・砂防）、岩男副会長（河川・砂防）、冷川広報委員（総監、水産土木）の大分県職OB3名と内田（施工計画）梅林建設勤務の合計4名が協力することになった。

私事であるが、講師を委嘱されたものの、昭和43年に2級土木施工管理技士を取得したきりで、1級の有資格者を相手に講師が勤まるかと不安であった。が、事務局より、教科書の内容から講師全員で自分の得意分野（法律・検査・施工計画・資材・環境・安全・測量等々）を分担すれば良いと分かって一安心した。

講習会用のテキストは、4冊であるが1冊が250～380頁もある立派なもので内容も充実している。これをマスターすれば、建設部門の技術士試験にも大いに参考になる内容を有している。また、久し振りに専門分野以外の専門書に目を通すことも私に取っては非常に有意義である。

テキストを一読したが、2級の私が1級用のテキストを講義してもはじまらないので、総監の技術士の立場と県職員の経験からテキストにはないリスク、トレードオフ、情報管理、PDCA等について、話をしたいと案を練っている。

大分県内の建設現場の管理技術、倫理等の向上に大分県技術士会が些かでも役に立てればと引き受け、会長以下、共に勉強することになりました。

平成17年度技術士第2次試験受験状況

（8月6日、7日福岡会場）

総合技術監理部門以外

申込者数 (人)	受験者数 (人)	欠席者数 (人)	受験率 (%)
2,388	1,517	871	63.5

総合技術監理部門

申込者数 (人)	受験者数 (人)	欠席者数 (人)	受験率 (%)
510	367	143	72.0

修習技術者の声

修習技術者としての抱負

山口 歩 (建設・長崎)

わたしが理想とする技術者とは『人と人をつなぐ人』である。人と人とのつながりは仕事をするうえだけでなく、人として生きて行くうえでとても大切なことである。では、人とつながりのある人とはどのような人でしょうか。信頼される人ではないかとわたしは思います。

その信頼につながるものの一つに資格があります。資格は名刺への記入など自分の紹介をする際に初対面の人でもすぐに知ることのできるその人の力量です。また、その資格がもとで話の種となることもあるでしょう。そうすることで互いを少しずつ知ることが出来、そこから信頼へとつながって行くのではないのでしょうか。では、現在どのような資格が求められているのでしょうか。仕事の場面で求められている資格の一つに技術士があります。

現在、わたしの周りには数名の技術士の方がい

らっしゃいます。それぞれ取得されている部門は異なっていますが、一つ共通していることはさまざまなことに興味を示し、疑問をもたれていることです。新しいものに対して大変意欲的で、勤勉なのです。そして、それがよい意味で回りに影響を及ぼしています。そのような技術士の先輩方は目標であり、その方々に少しでも近づくための技術士補の受験でした。

前回の試験で晴れて合格し、技術士補となりはしたもののまだまだ先は長く、どの部門での技術士受験をするか決まっていな現在です。しかしながら、幸運にも私は少なくとも後4年は技術士の試験を受けることができません。この4年間の意識の持ち方によって、自分の4年後の姿は大きく変わってくるのではないかと思います。この4年間を大切に、前述した先輩方をみならい興味をもったことに対して深く学んで行きたいと思います。

人との出会い、興味をもつ事柄との出会い、種々の『出会い』に対して一期一会をモットーに、『人と人をつなぐ人』となれるよう自己研鑽にはげみたいと思います。

知識の窓

「除福伝説にみる国際技術交流」

福岡 仁 (建設・佐賀)

私が住む佐賀市金立町は全国30箇所ほどある除福所縁の地のひとつです。ここに、「除福長寿館」という薬用植物園があります。除福が探し求めた不老不死の仙薬と称されるフロフシ(カンアオイ)をはじめ、約5万本の薬草木が植栽されています。先日、息子をつれて1時間ほど散策しましたが、大変興味深い場所でありました。ここで、除福伝説の紹介と今後のアジアにおける技術交流についてふれてみたいと思います。

司馬遷の史記によると、薬方士であった除福は、紀元前219年に秦の始皇帝の命を受けて日本列島に渡来したと伝えられています。その際、五穀の種と童男童女及び百工(技術者達)総勢三千人をたずさえ、日本の各海岸線に漂着し、灌漑稲作技術等をもたらしています。渡来人の末裔「秦(ハタ)」姓もここからきているとされています。当時の中国(秦)は、万里の長城に代表される多くの土木事業を行っていま

した。一方、日本(倭?)は縄文から弥生に移ろうとしていた時代であります。土木、農業、医療、船舶等の技術における日中間格差は雲泥の差であったと考えられます。

2200年経った今日、その伝承技術の中に面白いものがあります。佐賀平野の田園風景に見られる「クリーク」や有明海干潟の名物「潟スキー」であります。中国の江蘇省連雲港市に除福村があり、除福の出身地ではないかとされています。その連雲港にもクリークと潟スキーがあるらしいのです。

「世界の工場」と言われるまでに急成長した中国、今後、沿岸都市の発展から内陸部への発展が推測されるなか、中国13億人の生活に必要な交通、電力、農業、情報等の整備と環境問題対策が急務になると思います。更に、中国周辺諸国へ波及する可能性も無いとも限らないと考えられます。私達は、戦後復興から高度成長を経験した国の百工として、様々な開発のノウハウから負の遺産に至るまで躊躇することなく伝える責務があると思います。そのためには、技術の異業種間及び産官学間交流を今以上に発展させ、国際社会における技術の代表的立場を保持していく必要があると思います。

シラスは弱くない、怖くない

上野 敏孝（建設・鹿児島）

鹿児島県本土の地表の大半は分厚いシラスで覆われています。それは阿多カルデラ、始良カルデラが“破局破壊”して、今の鹿児島湾（＝錦江湾）を彫り深く形成した産物といわれます。その破局ぶりは雲仙普賢岳の何万～何千万倍だったか想像も付きませんが、火山や地質専門家の間では天地が引っ繰り返るような破局ドラマの解明も試みられ、私たちに興奮させます。

ところで、このシラス地帯（宮崎型のシラスとは物理的特性が多少異なる、との洞察－故・小出博氏ら－も重要）での災害が鹿児島県外に報道される時、決まって「軟弱な、危険な」との形容詞が付きまといまいます。昭和44年に膨大なシラスが市街地に流出した災害がそうした風評を広げたのでしょうか。なるほど、表土をはぎ取った段階ではみるみる流水に侵食されるのも事実です。ところが力学的にはどうかというと、高さ数十mで安定直立するがけが見られます。すかし堀りなど人為的原因以外に力学的に破壊・被災した例は皆無に近いという統計的事実（昭和42年宮山勲氏ら）も表面化してきませんでした。人為的に地表が改変されていなければ、確率百年超の豪雨でも本体まで傷つくことはまれ。厚く急峻な山容を形成する地山シラスは特に硬くて、透水性も

1ランク小さい。そのためか破壊性状は一般土のすべり現象と違う物理現象を呈します。また硬質シラスが再盛土されて長年月経つと、地山並に硬化している事例も経験されることです。

地表がむき出しなら流水に侵されやすいが、静止水化すれば無害化できる。にもかかわらず、「力学的にも軟弱だ」との先入観を持たれてきました。そこで支持力が過小評価されたり土圧が過大算定されたり、せっかく固結度の高い地山がわざわざほぐされて危険な施工となったりしてきました。そうした軟弱説に困惑する地元の実務家も少なくありません。長らく宅地造成を施工してきた私もその一人です。全国でもトップクラスの土砂災害県ではありますが、むしろシラスがあまりに強固なために、植生の活着が阻まれ、豪雨で表層落下しやすいのが災害の代表原因と考えます。

については、①植生の回復を怠らない、②急斜面より緩斜面が侵食されやすいことに留意する、③コンクリート工作物などでシラスと接する部位は平滑にしない（境界面侵食を抑える）、などに心掛けた上で、シラスの長所が活かされる合理的かつ安全な計画が普及するよう願っております。

平成17年度会長表彰 受賞者きまる

去る6月24日、本部総会の席で九州支部から次の5名の方が会長表彰を受賞されました。おめでとうございます。

古賀 忠氏 長崎 治夫氏
藤永 政弘氏 帆足 建八氏
棚町 修一氏

訃報

大分地区副会長の濱 光春様(64)が7月19日死去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

お詫びと訂正

64号の「お知らせ」でご紹介しました支部役員の中に、帆足建八氏（顧問）が記載されておりましたので、お詫びし訂正させていただきます。

第11回西日本技術士研究業績発表年次大会報告

九州支部 CPD 委員会主査 久保川 孝俊（建設、総合技術監理・福岡）

平成11年6月3日（金）佐賀県立生涯学習センターにて、九州支部主催、NPO 法人「技術交流フォーラム」・長崎県技術士会共催による年次大会が開催されました。

大会は、光岡毅九州支部長の開会宣言で始まり、清野茂次技術士会会長並びに川上義幸佐賀県副知事の来賓挨拶があり、そして記念講演へと進みました。

★記念講演は、佐賀城本丸歴史館の杉谷昭館長による、「佐賀城本丸歴史館と閑叟候の時代」を演題に、激動の時代に生き、政治力・軍事力を持ちながら行使せず“肥前の妖怪”と称された佐賀藩第10代藩主鍋島直正（閑叟候）の生き様と、閑叟候が再建した佐賀城本丸御殿の概要と、4日（翌日）に見学会予定の歴史館に関する説明がありました。

★午後は、九州、中・四国、近畿の技術士の研究・業績発表が分科会形式で行われました。

『第1分科会』は“自然災害と危機管理”をテーマとして、岩尾雄四郎氏（佐賀大学：理博／技術士）による「斜面災害の要因と規模」を演題とした基調講演があり、福岡西方沖地震、鹿児島吾平町やスリランカの斜面災害等を例に挙げ、斜面災害の抑止抑制技術の進歩と人間の住居様式の変化や個人の意識変化との両面から見た災害要因と規模に対応する社会システムのあり方を、分かり易く説明されました。

その後、九州支部の後藤雅之氏、尾澤卓思氏、谷雄平氏、北島秀行氏、中・四国支部から山下祐一の技術士5名による研究・業績が発表されました。

『第2分科会』では“産業災害と危機管理”をテーマとして、勝田順一氏（長崎大学：工博）による「日常業務でのヒューマンファクタに関する危機管理」を演題とした基調講演があり、今までの重大事故の例をあげ、事故は些細なことをきっかけに容易に発生している事や、これには全てにヒューマンファクタが関わっている事を明快に説明され、法規

制や制度・技術的措置のみでは十分な安全の確保は望めず、技術面に加えて心理学的措置の必要性が重要である事を力説されました。

引き続き、九州支部から沖部俊昭氏、平山賢治氏、長崎治夫氏、山喜秀昭氏の4名、近畿支部から川下好則氏の技術士5名による研究・業績が発表されました。

『第3分科会』は“くらしと道のやくわり”をテーマとして、岩屋信一郎氏（国土交通省佐賀国道事務所：技術士）による「モビリティ社会と危機管理」を演題とした基調講演があり、暮らしの中の道路としての機能・防災点検や情報発信など道路行政の現状を紹介するとともに、モビリティ利用者の高齢化や災害・人的事故など不測の事態に対する道路行政のあり方について、近年の災害対応経験を踏まえた今後の課題などを提起されました。

その後、九州支部から森将彦氏、杉松彰氏、藤川和之氏、今井博昭氏の4名の技術士から研究・業績が発表されました。

★分科会終了後、はがくれ荘に場所を替え約70名の参加者による懇親会を行いました。遠来からの参加者や旧知の方との名刺交換や談笑となり、加えて富士町大串地区のコミカルな「たぬき踊り」が披露され、本大会の盛り上がりには花を添えました。

★翌6月4日（土）は、30数名の参加者による佐賀城本丸歴史館見学会が開催されました。参加者は大半が前日からの泊り込み組で、10時に佐賀城の門前に集合し記念撮影の後、前日に記念講演をして頂いた杉谷歴史館館長の案内の下、約2時間の歴史館内・城内見学、記念撮影など時を遡った一時を過ごし、歴史の余韻を残したまま12時に見学会を終了しました。当大会開催に当たり、多大なご尽力やご協力いただいた多くの関係者の方々に、この紙面を借りまして心より感謝申し上げます。

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部)入会

(地区) (区分) (氏名) (部門)

長崎	正会員	高山 能博	機械	〒840-0081	諫早市栄田町18-61
大分	正会員	中島 茂	機械	〒870-0164	大分市明野西2-2 S-2 302
大分	正会員	鈴木 敦	電気電子	〒870-0253	大分市汐見2-8-11
福岡	正会員	田中 俊輔	電気電子	〒810-0012	福岡市中央区白金2-5-16
長崎	正会員	赤倉 史明	建設	〒850-0041	長崎市浜平1-1-3 浜平中央ビル602
福岡	正会員	阿部 聖	建設	〒812-0036	福岡市博多区上呉服町10-1 博多三井ビル
熊本	正会員	荒木 高弘	建設	〒861-1115	熊本県菊池郡合志町豊岡2000-829
福岡	正会員	碓 正敏	建設	〒810-0801	福岡市博多区中洲5-6-20
福岡	正会員	井川 泉	建設	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-4-11
福岡	正会員	井根達比古	建設	〒812-0061	福岡市東区宮松4-6-25
熊本	正会員	今蘭 淳司	建設	〒862-0933	熊本市小峰2-6-26
福岡	正会員	今村 秀秋	建設	〒811-3212	福津市福岡南3-25-47
宮崎	正会員	植田 康宏	建設	〒880-0911	宮崎市大字田吉1881-1
福岡	正会員	浦 元啓	建設	〒812-0007	福岡市博多区東比恵1-2-12 RFセンタービル5F
福岡	正会員	川路 俊博	建設	〒811-3101	古賀市天神3-13-5
福岡	正会員	神戸 信人	建設	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前3-10-24
福岡	正会員	金 昌秀	建設	〒810-0041	福岡市中央区大名2-4-12 CT福岡ビル
福岡	正会員	桑原 和敏	建設	〒830-0038	久留米市西町1174-10
福岡	正会員	坂本 洋	建設	〒810-0041	福岡市中央区大名2-4-12
福岡	正会員	竹内 一博	建設	〒815-0031	福岡市南区清水1-21-32
熊本	正会員	谷口 徹也	建設	〒866-0894	八代市上野町1811-1
福岡	正会員	中村 勲	建設	〒818-0036	筑紫野市光が丘3-27-8
大分	正会員	長尾 順一	建設	〒870-0131	大分市大字皆春1160-47
福岡	正会員	西頼 和之	建設	〒816-0095	福岡市博多区竹下5-19-22
佐賀	正会員	福岡 仁	建設	〒849-0906	佐賀市金立町大字金立1544-115
福岡	正会員	松田 浩一	建設	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前3-10-24
熊本	正会員	松野 恭二	建設	〒865-0051	玉名市繁根木143-2
福岡	正会員	矢ヶ部輝明	建設	〒811-1345	福岡市南区向新町1-8-49 ダイアパレス八番館304号室
福岡	正会員	山本愼太郎	建設	〒812-0069	福岡市東区郷口町2-10-301
福岡	正会員	白井 堯	金属総監	〒810-0041	福岡市中央区大名1-3-30-802
福岡	正会員	太田 智博	上下水道	〒815-0081	福岡市南区那の川1-23-15
北九州	正会員	寺師 政廣	上下水道	〒804-0021	北九州市戸畑区一枝4-2-12-301
鹿児島	正会員	羽牟 浩二	上下水道	〒891-0404	指宿市東方99-2
福岡	正会員	山田 秀治	上下水道	〒810-0045	福岡市中央区草香江1-7-9 ガーデンハイツ大濠402号室
福岡	正会員	幸 俊宏	上下水道	〒812-0007	福岡市博多区東比恵1-2-12 RFセンタービル5F
北九州	正会員	岩永 豊	衛生工学	〒804-0042	北九州市戸畑区夜宮3-10-6 グランドパレス夜宮公園203号
福岡	正会員	因 治彦	衛生工学	〒815-0081	福岡市南区那の川1-24-1
福岡	正会員	大塚 祐治	農業	〒815-0031	福岡市南区清水1-14-8
大分	正会員	佐藤 光敦	農業	〒870-0856	大分市畑中799-1
鹿児島	正会員	山下 国男	農業	〒890-0009	鹿児島市伊敷台1-22-2
宮崎	正会員	山田 雅弘	農業	〒880-0052	宮崎市丸山2-119
福岡	正会員	陶山 正憲	森林	〒830-0042	久留米市荘島町18-2
福岡	正会員	伊藤 実	応用理学	〒816-0086	福岡市博多区南八幡町2-9-19-20
熊本	正会員	黒木 久達	応用理学	〒862-0935	熊本市御領3-15-1-102
福岡	正会員	金丸 太守	環境	〒811-1344	福岡市南区三宅3-11-306
長崎	正会員	立石ヒロ子	環境	〒852-8156	長崎市赤迫1-2-7-705
福岡	準会員	平間 圭助	機械	〒816-0074	福岡市博多区光丘町1-3-5 第一光ヶ丘ハイツ403号室
福岡	準会員	川口 一義	電気電子	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前3-30-13

福岡	準会員	穴井 良久	建設	〒838-0137	小郡市福童3429-34	ファミリーはたまA-1
北九州	準会員	稲田 信久	建設	〒800-0041	北九州市門司区泉ヶ丘3-23	サンライフ泉ヶ丘II102号
大分	準会員	小畑 均	建設	〒879-0454	宇佐市大字法鏡寺188-3	
宮崎	準会員	亀沢 正人	建設	〒885-0037	都城市花線町2-15	
宮崎	準会員	白木 潤	建設	〒880-0878	宮崎市大和町56-2	山口コーポA-2-11
北九州	準会員	田島 寛之	建設	〒824-0003	行橋市大橋3-4-6	
鹿児島	準会員	若松 幹雄	建設	〒890-0041	鹿児島市城西2-3-7	
熊本	準会員	後藤 亮	上下水道	〒860-0883	熊本市榆木4-18-32	
宮崎	準会員	古澤 英生	森林	〒882-1101	西臼杵郡高千穂町大字三田井22	
宮崎	準会員	松田 英人	水産	〒885-1311	北諸県郡高城町大字有水1941	
福岡	準会員	伊藤 智之	応用理学	〒815-0041	福岡市南区野間4-3-33	
長崎	準会員	江里口正晴	生物工学	〒851-0134	長崎市田中町384-1	県職員東長崎アパート301号
福岡	準会員	緒方 貴宏	生物工学	〒811-2115	粕屋郡須恵町佐谷1719-83	アステック社員寮203
熊本	準会員	佐藤 浩介	環境	〒869-0451	宇土市北段原町185-5	

☆会員連絡先（住所）および勤務先変更

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門) (変更)	(上段:連絡先/下段:勤務先)		
				〈連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ〉		
大分	正会員	川窪 一郎	建設環境	連: 〒839-2153	宮崎市学園木花台南3-35-4	☎・FAX(0985)58-2914
				勤: 西日本コンサルタント(株)宮崎支店	☎(0985)55-3099	FAX(0985)55-3205
	正会員	井口 公一	建設	連: 〒279-0002	浦安市北栄1-7-27	日邦マリンコート307号
福岡	正会員	棚町 修一	建設	勤: 〒816-0088	福岡市博多区板付4-7-28	
				(株)アルファープランニング	☎(092)589-0666	FAX(092)589-0067
福岡	正会員	矢野 武彦	農業	勤: 〒827-0004	田川郡川崎町田原725-15	
				呉調査設計(株)	☎(0947)72-3900	FAX(0947)72-3644
大分	正会員	山川 純雄	建設	連: 〒871-0011	中津市下池永205-4	
長崎	正会員	松本 敏八	建設	勤: 〒850-0804	長崎市彦見町17-3	
				(株)ウエノ		☎(095)818-7811
福岡	正会員	坂田 宏人	建設	連: 〒813-0014	福岡市東区香椎台3-22-11	☎(090)2581-9702
福岡	正会員	堀江 研二	環境	連: 〒814-0003	福岡市早良区城西2-13-52-509	
宮崎	正会員	甲斐 重隆	建設	連: 〒880-0903	宮崎市大田1-3-24	☎(0985)59-1128
				勤: 宮崎県高鍋土木事務所		☎(0983)23-0001
北九州	正会員	垣迫 裕俊	建設	連: 〒802-0985	北九州市小倉南区志井5-13-12	
福岡	正会員	伊藤 純仁	農業	連: 〒819-0161	福岡市西区今宿東2-14-16	☎(092)807-5519
福岡	正会員	田嶋 俊郎	建設	連: 〒815-0033	福岡市南区大橋4-16-41-201	
福岡	正会員	酒井 雅道	建設	連: 〒814-0161	福岡市早良区飯倉6-37-7	
福岡	正会員	藤井 利治	上下水道	勤: 〒810-0001	福岡市中央区天神1-10-1	
				(財)福岡アジア都市研究所		☎(092)733-5683
鹿児島	正会員	四元 節夫	農業	勤: 〒899-2704	鹿児島市春山町1508-18	
				(株)黒岩設計事務所	☎(099)278-7011	FAX(099)278-0877
宮崎	正会員	後藤 繁俊	応用理学	連: 〒880-0035	宮崎市下北方町横小路5886-4	タウンィさかもと102号
				勤: (株)九州土木設計コンサルタント	☎(0985)39-3330	FAX(0985)39-4098
鹿児島	正会員	萩原 清文	建設	勤: 〒890-0008	鹿児島市伊敷5-17-5	
				コーアツ工業(株)	☎(099)229-1115	FAX(099)229-1117
長崎	正会員	義満 宏文	建設総監	連: 〒858-0916	佐世保市木宮町3-26-1001	☎(0956)48-7756
				勤: 旭測量設計(株)	☎(0956)73-7050	FAX(0956)73-7055
熊本	準会員	長田 光義	建設	勤: 〒863-0021	本渡市港町8-1	共栄ビル3F
				光亜コンサルタント(株)	☎(0969)24-0500	FAX(0969)24-3141
熊本	準会員	岩永 竜弥	化学	連: 〒861-8043	熊本市戸島西1-16-34-201	
大分	準会員	吉武 寿志	建設	勤: 〒870-0045	大分市城崎町2-2-25	
				大分県土地改良事業団体連合会	事業部農村計画課	
					☎(097)536-6631	FAX(097)533-8955

御協力いただいている 賛 助 会 員

……………〔福岡〕……………	アジアエンジニアリング(株)	東洋測量設計(株)
日本総合コンサルタント(株)九州支店	……………〔北九州〕……………	九建設計(株)
(株)建設環境研究所	日本航測(株)	日進コンサルタント(株)
(株)唯設計事務所	(株)九州設計事務所	ダイエーコンサルタント(株)
日本建設コンサルタント(株)九州支店	九和設計(株)	……………〔宮崎〕……………
中央開発(株)九州支社	(株)都市開発コンサルタント	(株)弓場水工コンサルタント
(株)ダイヤコンサルタント九州支社	(株)松尾設計	(株)ロードリバーコンサルタント
日本工営(株)福岡支店	(株)酒見設計	(株)ケイディエム
昭和地下工業(株)	(株)太平設計	(株)親協
第一復建(株)	冷牟田設計コンサルタント(株)	南日本総合コンサルタント(株)
(株)松本組	環境テクノス(株)	(株)宮崎産業開発
(株)エスケイエンジニアリング	……………〔佐賀〕……………	(株)西田技術開発コンサルタント
(株)福山コンサルタント	(株)精工コンサルタント	(有)福島測量設計調査事務所
(株)東京建設コンサルタント九州支店	新九州測量設計(株)	九州工営(株)
東邦地下工機(株)	西日本総合コンサルタント(株)	正栄技術コンサルタント(株)
大成ジオテック(株)	日本建設技術(株)	(株)東九州コンサルタント
富洋設計(株)九州支社	(株)九州構造設計	(有)日豊測量設計事務所
九州建設コンサルタント(株)福岡支店	新栄地研(株)	日測コンサルタント(株)
(株)サンコンサル	……………〔長崎〕……………	(株)水理設計
(株)橋梁コンサルタント福岡支社	大栄開発(株)	(株)ダイワコンサルタント
(株)アイ・エヌ・エー九州支社	(株)実光測量設計	(株)白浜測量設計
(株)九州地質コンサルタント	西日本菱重興産(株)	(株)杉田測量設計コンサルタント
(株)タイヨー設計	大洋技研(株)	南興測量設計(株)
日鉄鉱山コンサルタント(株)九州支店	(株)親和テクノ	(株)アップス
(株)大建	(株)新栄設計事務所	(有)カツキ技術士事務所
(株)エス・ピー・エンジニアリング	扇精光(株)	(株)共同技術コンサルタント
新地研工業(株)	……………〔熊本〕……………	(株)国土開発コンサルタント
(株)カミナガ	(株)九州開発エンジニアリング	(株)都城技建コンサルタント
平和測量設計(株)	アジアプランニング(株)	(株)第一テクノコンサルタンツ
(株)高崎総合コンサルタント	……………〔大分〕……………	……………〔鹿児島〕……………
西日本コトラクト(株)	松本技術コンサルタント(株)	中央テクノ(株)
西鉄シーイーコンサルタント(株)	協同エンジニアリング(株)	朝日開発コンサルタンツ(株)
日本地研(株)	(株)日建コンサルタント	(株)久永コンサルタント
第一設計(株)	東亜コンサルタント(株)	コーアツ工業(株)
九州環境技術研究所	九州特殊土木(株)	大協(株)
西日本技術開発(株)	大洋測量設計(株)	(株)建設技術コンサルタンツ
(株)富士ピーエス	九州建設コンサルタント(株)	
大和コンサル(株)	西日本コンサルタント(株)	

第32回技術士全国大会(福岡) 申込せまる。

参加申込の締切りせまっています。まだ申込されていない方は、先日お送りしました「第32回技術士全国大会(福岡)のご案内」(A4版-7ページ)の参加申込書に記入の上、FAXにてお申し込み下さい。

申込締切：平成17年9月9日(金) 16:00

申込先：ジョイロード福岡団体旅行支店

FAX 092-474-8194

TEL 092-474-8129

「技術士だより」の送付形態が 変わります

日本技術士会では、全体として郵送コスト削減を図るため、支部発行の郵便物(広報誌や総会資料など)を月刊「技術士」に同封してお届けすることになりました。

支部会員の皆様へは、技術士会本部より月刊「技術士」に同封して「技術士だより」をお届けします。センター会員の皆様へは、従来どおり九州技術士センターからの送付となります。

(広報委)

会誌“技術士”最近の主要目次

[PE] 技術士6・2005

- ・災害対策と技術士/野沢太三
- ・技術者倫理規定の元祖としてのヒポクラテス誓詞とナイチンゲール誓詞/小林宏臣
- ・新燃料DME直接合成法の開発/大宮 衛・八木 宏
- ・水の不思議な力/氷上克一
- ・韓国の給排水衛生設備および上下水道施設凍結対策等調査の報告/赤井仁志
- ・日中技術交流センターの紹介/杉田和雄
- ・平成17年度会長表彰受賞者
- ・技術士CPD登録証明書発行の開始について

[PE] 技術士7・2005

- ・一般技術部門の技術士に活動の場を与えよう/吉岡芳夫
- ・ビジネス倫理から見た工学倫理/奥田孝之
- ・新型フィルム太陽電池量産技術の開発/高野章弘・加藤 清
- ・地震に伴う温泉・地下水の挙動/畠中武文
- ・CPD中央講座で初めての企業内技術士交流会との共催/鈴木義雄
- ・技術士業務報酬の手引きの改定について
- ・第10回西日本技術士研究・業績発表年次大会報告/北村友博
- ・IT21の会オープンカンファレンス2005(大阪)/石井一夫

[PE] 技術士8・2005

- ・「技術士」は、技術の士(さむらい)と書く/小野晋也
- ・会長就任のご挨拶/都丸徳治
- ・新役員の紹介
- ・大学における技術者倫理/中江利昭
- ・分解菌による環境ホルモン処理-大学発表ベンチャー立上げ苦労談/藤井克彦
- ・最新のITと利用と課題/嶋田弘信
- ・建設系CPD協議会の活動報告/君島光夫

編集後記

今年の最大行事は、間近に迫りました10月19日の第32回技術士全国大会(福岡)です。実行委員会の皆様のご尽力により、準備も仕上がりに近づいています。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

これまで毎年発行してきました九州支部・センター会員名簿が発行中止となりました。会員の皆様にはいろいろとご不便をかけるかと思いますが、「会員情報の問合せ」に関しては、「技術士だより」、「九州支部ホームページ」で継続して案内をしていきますので、よろしく願いいたします。

去る8月6、7日に平成17年度技術士第二次試験が、九州大学(六本松)で行われました。今年の福岡会場の受験申込者数を見ますと、総合技術監理部門は、510人で昨年(549人)に比べやや減、総合技術監理部門以外は2,388人で昨年(1,735人)に比べ大幅増となっているようです。(棚町)

発行：(株)日本技術士会九州支部

九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail：engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL：

http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer

センター： ☎/FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社